

令和6年度病害虫発生予察注意報(第1号)の発表について

チャバネアオカメムシの果樹園への飛来が平年より多くなると予測され、ナシをはじめとした果樹への加害が懸念されます。

そこで病害虫防除所では、被害を最小限に抑えるため、生産者が十分な対策を講じるよう病害虫発生予察注意報を発表しましたので、お知らせいたします。

○病害虫発生予察注意報

「病害虫発生予察注意報」は、病害虫の多発生により農作物に大きな被害が発生すると予想され、かつ早急に防除対策を講じる必要がある場合に発表されます。

○チャバネアオカメムシの発生生態について

果樹(ナシ、リンゴ等)を加害するカメムシは数種類(チャバネアオカメムシ、クサギカメムシ、ツヤアオカメムシ等)あります。県内での主な加害種は、体長約11mmのチャバネアオカメムシ(写真1)です。チャバネアオカメムシは、山林の落葉の下等で越冬し、5～6月にサクラやクワの果実、7月以降にスギやヒノキの球果を主な餌として移動します。移動途中の成虫や餌が不足になった成虫の一部が果樹に飛来し吸汁します。



写真1 ナシを加害するチャバネアオカメムシ

○カメムシ類の被害について

カメムシ類は、口針と呼ばれる口を果実に刺して、果汁を吸います。肥大途中で吸汁された果実は形状が悪くなり、商品価値が著しく低下します(写真2)。



写真2 カメムシ類に加害されたナシ果実

○本年のチャバネアオカメムシ発生状況について

本年1月下旬から2月上旬に県内42地点で行ったチャバネアオカメムシ成虫の越冬量調査における越冬成虫数(本年値9.7頭、平年値1.9頭)は平年より多く、越冬地点率(本年値86%、平年値40%)は平年より高くなりました。

5月第1半旬現在、果樹園内に設置した予察灯(夜間、光に集まった害虫の誘殺推移を確認する装置)へのチャバネアオカメムシの総誘殺数は、かすみがうら市で平年より多く、発生時期もやや早くなっています。また、笠間市においても総誘殺数は平年より多い状況です。

気象予報によると向こう1か月の気温は平年より高いと予想され、発生を助長する条件です。

このため、本年はチャバネアオカメムシの果樹園への飛来が、平年より多くなるおそれがあります。

○防除対策

カメムシ類の飛来状況は、地域や園周辺の環境等によって異なりますので、園内外をよく観察し、飛来状況に合わせて薬剤防除を行う必要があります。なお、薬剤を使用しない防除法の1つとして、多目的防災網(目合い6mmまたは9mmクロス等のネット)の展張があります。これにより、カメムシ類の園内への侵入が抑制され、被害を軽減することができます。

注 意 報

茨城県病虫害防除所

令和6年5月10日

病虫害発生予察注意報 第1号

果樹を加害するチャバネアオカメムシの多発生が予測されます！

果樹園内への飛来に注意して下さい！

[発表の内容]

作物名 : 果樹類 (ナシ、リンゴ等)

害虫名 : チャバネアオカメムシ

発生量 : 多い

発生地域 : 県下全域

[発表の根拠]

- ① 本年1月下旬から2月上旬に県内 42 地点で行ったチャバネアオカメムシ成虫の越冬量調査における越冬成虫数(本年値 9.7 頭、平年値 1.9 頭)は平年より多く、越冬地点率(本年値 86%、平年値 40%)は平年より高い(図1)。
- ② 5月第1半旬現在、かすみがうら市の果樹園内に設置した予察灯のチャバネアオカメムシ総誘殺数は平年より多く、誘殺時期は平年より早い(図2)。
- ③ 5月第1半旬現在、笠間市の果樹園内に設置した予察灯のチャバネアオカメムシ総誘殺数は平年より多く、誘殺時期は平年並である(図3)。
- ④ 気象予報によると向こう1か月の気温は平年より高いと予想され、発生を助長する条件である。

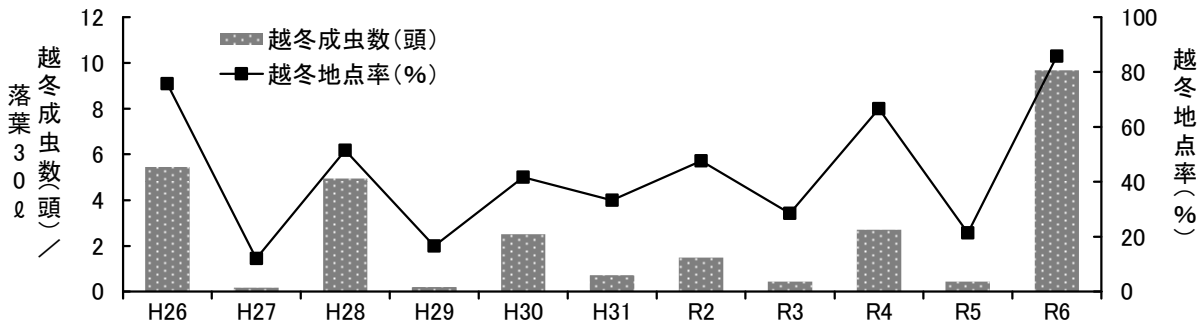


図1 チャバネアオカメムシの越冬成虫数および越冬地点率の年次変動

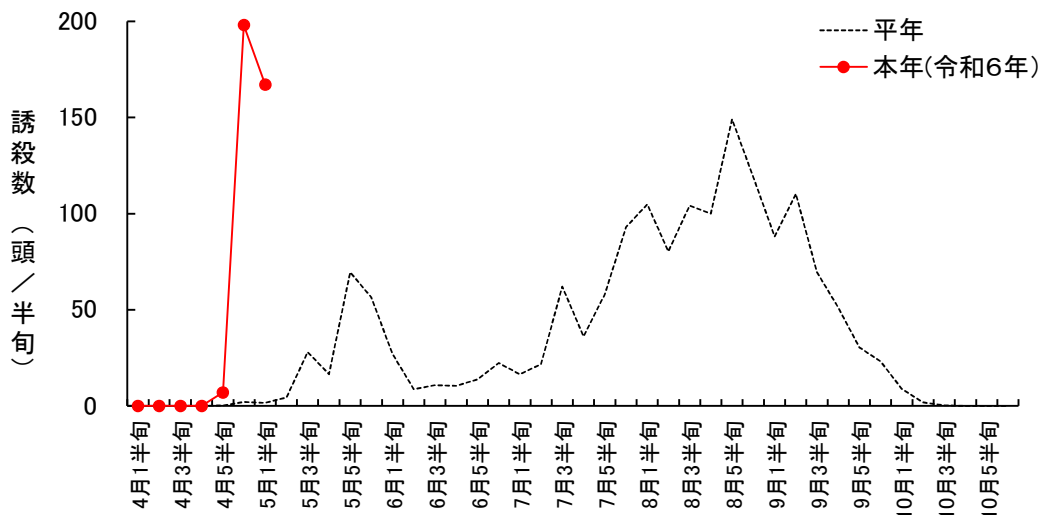


図2 チャバネアオカメムシの予察灯(かすみがうら市)への誘殺数

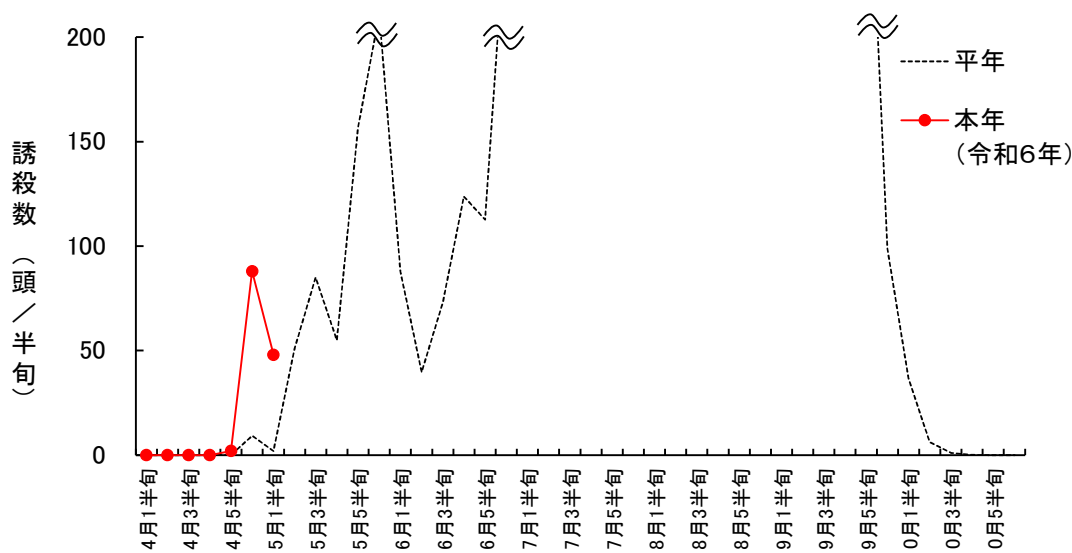


図3 チャバネアオカメムシの予察灯（笠間市）への誘殺数

[防除対策]

- ① 多目的防災網（目合い6mmまたは9mmクロス等のネット）はカメムシ類の園内への侵入を防ぐため、被害軽減に有効である。
- ② カメムシ類は夜温が高くなると活動が活発になり、果樹園に飛来する。果樹園内でカメムシ類を確認した場合は、表1を参考に活動の鈍い早朝に薬剤防除を行う。
- ③ 有機リン系およびピレスロイド系薬剤は、カメムシ類に対して効果が高いが、天敵類に及ぼす影響も大きく、ハダニ類やカイガラムシ類の多発生を招くおそれがあるので注意する。
- ④ カメムシ類の発生時期や発生量は地域や圃場によって大きく異なるため、定期的に圃場全体を観察し、早期発見と薬剤による初期防除を徹底する。
- ⑤ 今後の発生状況については、病害虫防除所ホームページを参照する。

(<https://www.pref.ibaraki.jp/nourinsuisan/nosose/byobo/boujosidou2/index.html>)

表1 カメムシ類に登録のある主な薬剤（令和6年5月1日現在）

作用機構分類（IRACコード） 系統名	薬剤名	ナシ	リンゴ
1 B 有機リン系	スミチオン水和剤40	○	(○)
2 B フェニルピラゾール系	キラップフロアブル		○
3 A ピレスロイド系	アグロスリン水和剤	○	
	スカウトフロアブル	○	○
	テルスターフロアブル	○	○
	ロディー水和剤	○	○
	アクタラ顆粒水溶剤	○	○
4 A ネオニコチノイド系	アドマイヤー水和剤	○	
	アルバリン顆粒水溶剤/ スタークル顆粒水溶剤	○	○
	バリアード顆粒水和剤	○	○
28 ジアミド系	ダントツ水溶剤	○	○
	テッパン液剤	○	○

注)・○：当該作物に農薬登録あり。

- ・スミチオン水和剤40は、リンゴの旭種とその近縁種では薬害が発生のおそれがある。
- ・テッパン液剤は、多発生時に使用する場合、効果が劣ることがあるので注意する。
- ・薬剤を散布する場合は、必ず農薬のラベルを確認し、農薬の使用基準を守るとともに、周囲への飛散(ドリフト)に十分注意する。